



# 島根県神社庁報

第356号

島根県神社庁  
〒699-0701  
出雲市大社町杵築東286  
TEL 0853-53-2149  
FAX 0853-53-2582

三年ぶりの一般参賀での天皇后両陛下・敬宮愛子内親王殿下

写真提供：(株)神社新報社

## 謹 賀 新 年

島根県神社庁 理事 藤角和孝  
島根県神社庁 副理事 佐木明宏  
島根県神社庁 監事 木佐弘  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏  
島根県神社庁 支部長 藤角和孝  
島根県神社庁 支部長 佐木明宏

島根県神社総代会 会長 木佐明宏 副会長 佐藤志郎  
島根県敬神婦人会 会長 千代子 副会長 厚礼子  
島根県教育関係神職協議会 会長 廣直 副会長 陶山寧  
島根県神道青年協議会 会長 坂厚典 副会長 安達和典  
島根県氏子青年協議会 会長 福間真吾 副会長 森藤公志  
島根県女子神職会 会長 古瀬真由美 副会長 松岡祐子  
事務局 主任 金村宏 副主任 和村茂樹  
録事 高和見 幸子

# 年頭の挨拶

島根県神社庁長

角河和幸



皇紀二六八三年・令和五年癸卯歳の新春を言祝ぎ、先ず以て皇室の御安泰と国家の繁栄・

世界の恒久平和をお祈り申し上げます。そして県内神社の御隆昌と氏子崇敬者の皆様方の益々の御健勝・御多幸を御祈念致し又、未だ収まらない感染症の早期終息を願う次第であります。

皇室におかれましては、コロナ禍のため中止されてきた新年の一般参賀を三年ぶりに感染防止策を講じて執り行われました。国民にとりましては大変ありがたい限りであります。さて本宗と仰ぐ神宮におかれましては、昨年七月五日に次期式年遷宮を見据えて神宮大宮司職が小松揮世久様より久邇朝尊様に引き継がれ、皇室の祖先神にして国民の総氏神様である神宮の次期遷宮についての想いを神社新報

に語っておられます。我々も心を一つにして神宮の御事に携わり、先ずは神宮大麻頒布に尚一層尽力してまいりたいと存じます。

神社本庁におきましては、定例評議員会が感染症対策を講じながら、春秋ともに無事に開催されました。秋の定例評議員会においては、令和四年度の補正予算などが可決され、昨年度までのコロナによる影響から若干の回復状況にあることを考慮し、歳入歳出の増額補正が承認され、通常の運営を取り戻す兆しが見えているように感じられます。しかしながら、全国の神社は未だ苦しい状況にあり、神社本庁にはその状況を打開する事業を切望するところであります。

島根県神社庁におきましては、コロナ感染症のためこれまで諸行事を自粛してまいりましたが、昨年は対策を取りながら徐々に事業を行なってまいりました。県神社庁の最高議決機関である協議員会においては、昨年引き続き負担金と特別寄贈金を減額する事が決議されております。また、神社関係者大会についても開催する予定ではありましたが、県内の感染者数が急増したことにより、やむなく中止の判断を

させていただきました。その大会中行なう神社の運営に寄与された神職総代を始め氏子崇敬者の皆様の各表彰におきましては、昨秋に斎行致しました神宮大麻頒布始奉告祭に併せて伝達式を執り行い、お慶び申し上げた次第であります。この表彰の栄に浴された方々には今後ともご自愛いただかれまして、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

県内の状況におきましては、感染症のワクチン接種が進み、感染者も減少傾向にありましたが、未だに終息しない状況にあります。そのような中でも、できる限りの対策を講じて祭祀を通じ、神社が地域の紐帯としての役割を果たしていくことが望まれます。私たち神職、総代はより一層、手を携えて神明奉仕に努め、氏子意識の昂揚をはかりつつ、神社護持に邁進してまいりましょう。

結びにあたり、迎えましたこの年が我が国を始め、四海万邦が豊かで平和な年であることを切に祈りますとともに、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

島根県神社総代会長

木佐明宏



明けましておめでとうございます。

令和五年癸卯の新春を迎え、

皇室の弥栄と、神宮をはじめ県内神社のご隆昌、更に皆様方のご清福をお祈り申し上げます。

常日頃より氏神さま、崇敬神社の護持運営はもとより、島根県神社庁並びに島根県神社総代会の事業推進に格別のご理解、ご協力を賜っていますことに厚くお礼申し上げます。

畏くも天皇陛下におかせられましたは、日々祭祀公務にご精励遊ばされるなか、新型コロナウイルス禍の影響により、諸行事にオンラインでご臨場なされたり、ビデオメッセージでお言葉を送られるなど、積極的に令和の時代を歩んでおられます。

先のご会見で、「何時の御代になっ

ても、皇室の在り方や活動の基本は、国民の幸せを常に願って、国民と苦楽を共にすることだと思えます。」とお述べになり、国民と共に歩まれるお姿は、誠に畏れ多く有り難き極みであります。なお一層皇室敬慕の念の涵養に努めなければならぬと存じます。

さて、本宗と仰ぐ神宮におかれましては、昨年七月新たに久邇朝尊氏が神宮大宮司にご就任になりましたこと、慶賀の至りに存じます。次期式年遷宮に向けての新体制スタートとあいまって、今後のご活躍をお祈り申し上げます。

時に昨年は神宮大麻が全国の家庭に頒布されるようになってから百五十年の記念すべき節目を迎えました。此に神宮大麻頒布の意義を再認識すると共に、神棚をまつり、その神徳を仰ぐ我が国の美しい祈りの伝統を次の世代へ継承していく事が大切であると存じます。

令和二年以来続くコロナ禍にあって、我が国の感染症拡大は、第七波沈静化

の後には第八波が到来し、予断を許さない状況です。斯界の活動も例外ではなく、諸行事や祭事も中止や規模縮小等で不自由を強いられている事をご承知の通りです。暫くはウイズコロナ時代の日常生活を模索し、定着させる努力が必要かと存じます。

近年、我が国は人口減少社会の到来を迎え、地域共同体の崩壊が懸念されています。県内神社を取り巻く環境も過疎化の影響を受け、多くの課題に直面しています。古えより地域の社会紐帯として奉護されてきた神社の護持運営に尽くすため、皆様方には氏神さまや各ご家庭の祭祀に率先してご奉仕いただきたく、又後継者の育成とご指導をお願い申し上げます。

おわりに、今年こそコロナ禍が終息に向かい、平和と安寧の日々が来復することを祈念し、年頭のご挨拶と致します。



月	日	曜	主催	行事	場所
6	未定		神社本庁	事務担当者会	神社本庁
			神社庁研修所	研修所講師会議	神社庁小会議室
			神宮	評議員会	神宮会館
7	13	木	県神社総代会	総代会監査会	神社庁役員室
			〃	代議員会	神社庁大会議室
			日本会議島根	理事会	〃
			島根県神社庁	関係者大会打合せ	神社庁小会議室
	未定	〃	総務委員会(県規程表彰審査)	神社庁役員室	
		〃	広報委員会	神社庁小会議室	
		〃	国民精神昂扬研修会(教化委員会総集會)	神社庁大会議室	
8	7月~9/3(日)	19(土)~20(日)	島根県神社庁	階位検定講習会	神社庁研修室
			島根県教神協	全教神協中国ブロック大会	島根県
	23	水	島根県神社庁	監査会	神社庁役員室
			〃	役員会	〃
	24	木	広島県神社庁	広島県神社関係者大会	広島市
未定		中国地区神社庁	中国地区教化会議	広島県	
9	6	水	全国神社総代会	全国神社総代会大会	群馬県高崎市
	12	火	島根県神社庁	島根県神社関係者大会	石見地区
	17	日	神宮	神宮大麻曆頒布始祭	内宮神楽殿
	(未定)		神社本庁	神宮大麻頒布曆秋季推進会議	神宮会館
			〃	神宮崇敬会事務局長会	〃
			〃	神社庁長会	神宮司庁
	25	月	〃	「皇室」普及委員会	〃
			島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	26	火	〃	神宮大麻曆頒布始奉告祭 (祭員・奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
			〃	支部長会	神社庁小会議室
〃			総務委員会(本庁表彰審査)	神社庁役員室	
未定		中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(甲)	鳥取県	
		全国敬神婦人会	全国敬神婦人会大会	未定	
		県氏青協	島根県氏子青年協議会定期大会	出雲市大社町	
10	15	日	神宮	神宮初穂曳	神宮
	17	火	大社國學館	大社國學館大祭	大社國學館
	未定		神社本庁	評議員会	神社本庁
			島根県神社庁	神宮大麻發送	各支部へ
		〃	広報委員会	神社庁小会議室	
11	9	木	〃	祭祀委員会	〃
	10	金	〃	例祭・新嘗祭 (祭員→庁長・祭祀委員・神青・女子神、 奏楽→石見地区)	神社庁神殿
	16	木	〃	総務委員会	神社庁役員室
			〃	教化委員会	神社庁小会議室
	27	月	山口県神社庁	山口県神社関係者大会	山口市
未定		中国地区神社庁	中国地区職員研修	鳥取県	
12	6	水	神社本庁	全国教化会議	神社本庁
			島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	7	木	〃	役員会	〃
			〃	身分選考委員会	〃
			〃	研修所企画会議	〃
28	木	〃	御用納祭	神社庁神殿	
未定		〃	広報委員会	神社庁小会議室	
		県敬神婦人会	総会	未定	



## 令和5年 島根県神社庁 年間行事予定表

月	日	曜	主催	行事	場所
1	4	水	島根県神社庁	御用始祭	神社庁神殿
	24	火	〃	新年祭(祭員・奏楽→石見地区)	〃
			神社庁研修所	研修所講師会議	神社庁小会議室
			島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
25	水	〃	役員会	〃	
28	土	神社庁研修所	支部祭式助教研修会	神社庁祭式教室	
2	11	土	日本会議島根	建国記念の日奉祝行事	未定
	15(水)~16(木)		中国地区神社庁	中国地区神社庁連絡会議	山口県下関市
	18(土)~19(日)		神社庁研修所	初任神職研修(前期)	神社庁研修室
	18	土	県神青協	竹島領土平安祈願祭 神政連青年隊時局研修会	浜田市
	21	火	島根県神社庁	祈年祭・神宮大麻暦頒布終了奉告祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
			〃	支部長会	神社庁小会議室
22	水	島根県	竹島の日記念式典	島根県民会館	
3	1	水	神政連本部	公開憲法フォーラム	広島市
	5(日)~7(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第1班)	伊勢市
	5	日	神宮	神宮大麻暦頒布終了祭	内宮神楽殿
	(未定)		神社本庁	神宮大麻暦頒布春季推進会議	神宮会館
	12(日)~14(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第2班)	伊勢市
	16	木	神社庁長懇話会	神社庁長懇話会	未定
	17	金	神社本庁	神社庁長会	神社本庁
			大社國學館	卒業式	大社國學館
(未定)		神社本庁	「皇室」普及委員会	神社本庁	
4	11	火	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
	17	月	大社國學館	入学式	大社國學館
	19	水	岡山県神社庁	岡山県神社関係者大会	岡山県
	22(土)~23(日)		神社庁研修所	初任神職研修(後期)	神社庁研修室
	未定		全国神社総代会	総代会幹部研修会	未定
5	14	日	出雲大社	出雲大社例大祭	出雲大社
	23	火	全国神社総代会	代議員会	神社本庁
	24	水	神社本庁	表彰式	明治記念館
			島根県神社庁 (院友神職会)	在京院友神職・学生懇親会	東京
	25(木)~26(金)		神社本庁	評議員会	神社本庁
	26	金	〃	班幣式・神社庁長会	〃
	未定		中国地区神社庁	中国地区社頭講演研修会	山口県
		〃	中国地区中堅神職研修(乙)	岡山県	
6	7	水	島根県神社庁	総務委員会	神社庁役員室
			〃	教化委員会	神社庁小会議室
			中国地区女子神職会	中国地区女子神職研修会	広島市
	12	月	神政連本部	本部長・事務局長会	神社本庁
	13	火	〃	中央委員会	〃
	20	火	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	21	水	〃	役員会	〃
			〃	身分選考委員会	〃
	25	日	日本文化交流財団	全国神社検定	(オンライン開催)
	28	水	〃	支部長会	神社庁小会議室
神政連県本部			代議員会	神社庁第二研修室	
29	木	島根県神社庁	協議委員会	神社庁大会議室	
10(土)か17(土)		中国地区氏青神青	中国地区氏青神青合同研修会	山口県周南市	

# 初任神職研修

【主催】 島根県神社庁研修所  
【期日】 (前期) 令和五年二月 十八日(土) ～ 十九日(日)  
(後期) 令和五年四月二十二日(土) ～ 二十三日(日)  
※四日間研修を右二日間ずつ分割実施する。

【会場】 『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地  
神社本庁研修規程に基づき、新たに任用された神職に対し、神社本庁・神社庁の組織を明確にせしめ、本庁包括下の神職としての自覚と連帯感を養う。

神職任用後五年以内に修了しなければならない必修研修です。

【参加資格】 ※参考神社本庁総合研究所研修規程施行細則第二条三号階位を有し、昭和五十年七月一日以降に宮司(代務者・欄宜・権欄宜・主典などに任用された者)二十名予定

【募集人員】 二十名予定

【申込方法】 ○島根県神社庁研修所入所申込書  
○履歴書  
○書籍申込書

※申込内容は各自で把握出来るようにコピー等、控えておいて下さい。

○角三封筒(B5サイズの封筒)  
※一四〇円切手を貼付し、本人の住所・氏名を記入して下さい。

令和五年一月十八日(水)までに神社庁必着でお願いします。

【入所許可】 入所申込者に対して書類選考を行い、入所許可を通知します。

※なお、入所許可の通知に併せて『研修生名簿』、『研修生活の葉』を送付します。

【必要経費】 研修費 三〇,〇〇〇円  
教科書代申し込みによる教科書代金

【準備品】  
【装束類】

【教科書】

【宿泊施設】

研修開催までに左記の通り準備して下さい。  
○白衣○白袴○白足袋○笏(女子はボンボリ)○白緒草履二足(上履・下履)○白手ぬぐい(白ハンカチ)○寝衣用白衣(※清潔な作務衣でも可)  
※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。  
各教科指定教科書(今回書籍を申込された方は、研修初日にお渡しいたします)。

当研修は合宿制につき、左記期日の宿泊については神社庁で指定する宿泊施設に合宿して戴きます。なお、前日宿泊については神社庁では斡旋しません。各自で確保願います。  
宿泊の詳細については、入所許可通知の際に改めて通知します。  
合宿期日二月十八日(土)及び四月二十二日(土)

【研修科目】

研修科目	時限	研修科目	時限
神宮史概説	3	神社本庁憲章	3
敬神生活の綱領	3	神社本庁史(神社庁史)	5
神社実務	5	祭祀関係実技	3
伊勢の神宮と出雲大社(次代へ受け継ぐ悠久の神話と祭儀)	3		

【その他】

・研修期間中の欠席はいかなる理由があろうとも一切認めません。  
・新型コロナウイルス感染防止対策を行った上で現時点では開催する予定にしておりますが、当該感染症の推移により、開催形態の変更及び中止する可能性がありますのでご承知置き願います。  
・受講一週間前より、健康観察等の報告を義務づけられます。

島根県神社庁  
住所 〒六九九・〇七〇-1  
島根県出雲市大社町杵築東二八六番地  
TEL 〇八五三一五三一・二一四九  
FAX 〇八五三一五三一・二五八二

# 支部祭式助教研修会

【主催】 島根県神社庁研修所

【期 日】 令和五年一月二十八日(土) 午前九時より受付

【会 場】 『島根県神社庁』 島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

【目 的】 支部祭式助教の研鑽と祭式指導者養成をはかるため。

【参加資格】 支部祭式助教、その他今後祭式指導者として適任と支部長が認め推薦する者。

【募集人員】 二〇名程度予定(各支部原則一名の参加を奨励します。)

※支部二名以上の参加を希望の場合、申込締切時点での

参加状況により、参加可能であればご連絡致します。

(二名以上参加希望の場合は、優先順位を記入願います)

【申込方法】

【提出書類】 研修申込書

【申込締切】 令和五年一月十八日(水)までに神社庁必着でお願いします。

【必要経費】 研修費 二、〇〇〇円

※別途教本代申し込みによる教科書代金。

※同封振込用紙にて申込時に納付下さい。

【準備品】 研修会開催までに左記の通り準備して下さい。

【装束類】 ○白衣○白袴○白足袋○笏(女子はボンボリ) ○白緒草履一足(下履) ○白手ぬぐい(白ハンカチ)

※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。

○平成二十二年改訂版神社祭式同行事作法解説(平成二十四年改訂四版) 一、九八〇円

## 教科書

○平成二十年改訂版神社祭祀関係規程(平成二十四年改

## 目 程

日程	時刻
受付・改服	9:30
開講式	10:00
祭式研修 (基本作法)	12:00
昼食・休憩	13:00
祭式研修 (指導方法について)	15:00
休 憩	15:10
祭式研修 (指導方法について)	17:10
閉講奉告祭 (研修生奉仕)	17:30
閉講式	
解 散	

訂五版) 一、一〇〇円  
※改訂版以前のものと内容が大幅に変わっておりますので、必ず改訂版をご用意下さい。

## 【その他】

新型コロナウイルス感染症対策について  
・研修生の皆様には受講に際し、次のご協力をお願いします。

1、発熱等風邪の症状が見られる場合は、受講を見合わせてください。

2、受講にあたっては、マスクの着用・手指の消毒・咳エチケットの励行など感染予防策にご協力下さい。

3、研修中に窓を開放し自然換気を行う場合がありますので、十分な寒さ対策をお願いいたします。

・現時点では感染症対策を行った上で研修実施を予定していますが、当該感染症の状況により急遽中止する可能性があります。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

島根県神社庁

電話番号 ○八五三(五三) 二一四九



隠岐郡隠岐の島町

賀茂那備神社 宮司 野津研吾

(昭和五十年生)



新春の慶びを申し上げますとともに、神宮をはじめ県内各神社の御社頭のご隆昌、並びにご清祥を心よりお祈り申し上げます。

八年前に隠岐の島に帰ることを決意し、階位検定を経て権正階の階位を頂戴いたしました。現在、私の奉仕いたします神社は本務社と兼務社二社です。ここ隠岐の島でも少子高齢化、過疎化の波による人口減少が続いており、本務社である賀茂那備神社においても氏子戸数は約百三十戸と少なくなっております。そうした中、本神社は奉賛会を十年前より立上げ、氏子の皆様、島内・県内外の皆様から寄付を募り、一

昨年より三年間にわたる本殿・拝殿の改修、随神門等の改修を無事行うことができました。改修を行う過程で、既存の棟札を整理し現存する本殿の建造年月が明らかとなり、令和二年十一月に隠岐の島町の有形文化財に指定されました。この文化財指定が更なる信仰心の昂揚、神社の弥栄につながるよう願うばかりです。

一昨年、本神社は神社本庁から過疎地域神社活性化推進地域として指定されました。これを活用し、氏子の皆様と一緒に集う機会や本神社の起源や歴史に関する講演会を行うなど、今一度本神社に対する理解を深めていただく機会を提供したいと思っております。そして、氏子の皆様一人一人と相互に信頼関係を築き、改めて本神社が氏子の皆様の心の拠り所となるよう努めてまいりたいと思っております。



大田市波根町

八幡宮 宮司 壺倉祐磨

(昭和六十二年生)



明けましておめでとうございます。謹んで新年のご祝辞を申し上げますと共に、皆様におかれましてはもよき新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年は、世界中にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスも落ち着きを見せ、コロナ禍で中止になっていた行事を数年ぶりに実施できた神社も多いのではないのでしょうか。

私が奉仕致します本務社でも、三年ぶりに夏祭りや例祭にて全ての催事を実施でき、久しぶりに町に活気を感じることが出来た年でした。私が宮司を拝命したのはコロナ禍に突入したばかりの令和二年夏でしたので、初めて全ての行事を準備から開催まで一貫して行うことが出来ました。まだまだ人が集まる行事には懐疑的な声もある中で開催できましたことは、氏子の皆様方のご理解とご協力の賜と存じます。



神社に限った話では無いのですが、久しぶりに従来どおり開催出来たイベントがある一方で、逆にここ数年の中止がきっかけで、自然消滅したイベントもありました。

私達が子供の頃から続く行事でも、こうしたことがきっかけでその歴史に幕を閉じていくのを目の当たりにし、非常に寂しさを覚えます。しかし見方を変えたと、コロナをきっかけとしてその時代を生きる人々に求められているもの、そうでないものが区別され、最適化されていく場面に遭遇したとも言えます。

パンデミックは百年に一度の周期で起こると言われますが、この出来事を通して思うのは、「本当に残していかなければいけない文化・慣習は自然と残っていくものではない」ということです。言い換えると、「文化や慣習を後世まで残していくのなら、必ず人の手によって熱量を持って次の世代へ伝えられる必要がある」ということ。

習慣だけで実施され、そこに人の熱量が無い、そんな文化・慣習はみなさんの身の回りに無いでしょうか。過去

から現在、そして未来へつなぐ強い文化を作るには、今を生きる私達が熱量をもって取り組んで行くことが必須です。

本務神社のある町は、過疎化が進み、いづれ小学校も複式学級になっていくことでしょう。氏子の数も徐々に減り、神社の護持運営もいよいよ難しくなっています。来年再来年といった話ではないのですが、五十年後にどうなっているかはわかりません。

私自身はこれから先、神社のことだけに目を向けるのではなく、護持運営の根幹となる地域の活性化、特に五十年先を支える子どもたちに「ふるさと」をつくる活動を実施していきます。まだまだ予断を許さないコロナ禍ではありますが、公私共に様々に挑戦を続ける年にする所存です。

人として、また宮司としてもまだまだ未熟ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のさらなるご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

できます。

出雲市斐川町

立虫神社

権祿宜 錦田礼乃

(平成十一年生)



新年明けましておめでとうござい  
ます。

新春を迎え、皇室の弥栄と、氏子崇敬者の皆様のご清祥を謹んでお祈り申し上げます。

出雲へ帰ってきて実家の神社で奉仕するようになり、二年が経ちました。普段は、日本語教師として留学生に日本語を教えたり、県内でも急増している外国にルーツをもつ子どもたちの支援などを行っています。そこでは、様々な国籍、文化、信仰、思想などをもつ人々が、お互いを尊重して助け合いながら生活しています。そのような姿を見る度に、人と人との繋がりがほど大切なものはないと感じます。

地域社会に目を向けてみると、人と人との繋がりの希薄化が問題視されています。神社という空間で、祭りという同じ時間を共有し過ごすことで、人

と人との心の繋がりがや思いやりの気持ち、境内を出たあとも続いてほしいと願っています。これは現代社会における神社と祭りをもつ最も大切な役割の一つだと思います。

地域社会の繋がりが始まり、日本中が、そして分断されつつある世界が、睦び和らぐことを祈りつつ、心して神明奉仕に勤しみ励みたいと思います。年初にあたり神職としての基本に立ち返り、氏子さんや参拝者さんと言葉を交わしたり、境内を清潔に保つたり、神道について学び続けるなど、自分のできることから一歩一歩努力する一年にしたいと思います。



### 例祭併新嘗祭

十一月十一日神社庁神殿において例祭併新嘗祭が役員支部長関係者参列のもと斎行された。

#### 祭典奉仕者

- 齋主 角河和幸(庁長)
- 副齋主 今井昭紀(祭祀副委員長)
- 祭員 金築知宏(祭祀委員)
- 祭員 森 真史(祭祀委員)
- 祭員 野上郁子(祭祀委員)
- 祭員 家原孝史(松江支部)
- 奏楽 渡部律也(松江支部)
- 典儀 牛尾 充(祭祀委員長)



## 遷座祭・式年祭紹介

令和4年 10月9日 はちまんぐう **八幡宮** (式年祭)

益田市久々茂町 宮司 綾部 正



令和4年 10月8日 さ い じんじゃ **佐爲神社** (遷座祭)

松江市宍道町 宮司 秦 崇弘



令和4年 11月5日 にさかのい じんじゃ **尔佐加志能爲神社** (遷座祭)

松江市島根町 宮司 金津 一男



令和4年 11月3日 いなり じんじゃ **稻生神社** (遷座祭)

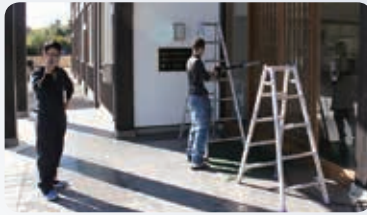
出雲市平野町 宮司 稻田 智之





# 庁舎清掃奉仕

十月三十一日(月) 島根県神道青年協議会(会長 板木厚典)並びに島根県女子神職会(会長 古瀬真由美)の第十二回合同庁舎清掃を行っていただきました。



## 大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

### 《所在地・照会先電話番号》

#### 大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283  
電話 0853-53-2020

### 《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名  
同(選科生) 若干名  
予科(別科生) 若干名

### 《入学試験・内容》

- 第1次 令和5年2月20日(月)
  - 第2次 令和5年3月20日(月)
  - 第3次 令和5年4月10日(月)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

### 《出願手続締切》

- 第1次 令和5年2月15日(水)
- 第2次 令和5年3月15日(水)
- 第3次 令和5年4月5日(水)

## 神 職 帰 幽

安来市伯太町 八幡宮  
宮司 中林 雅之  
令和四年九月九日 享年八十一

松江市西川津町 熊野神社  
宮司 野津 英登  
令和四年十月二十四日 享年八十一

出雲市佐田町 須佐神社  
宮司 須佐 建紀  
令和四年十一月十二日 享年八十九

謹んで哀悼の意を表します。  
島根県神社庁長 角 河 和 幸

## 新任神職紹介



宮能幹典

(生年月日)  
昭和五十九年  
三月二十二日

〔住所〕松江市砂子町二一〇一  
アルファステイツ城西砂子五〇一号

〔奉職神社〕水上神社 祿宜

〔就任年月日〕令和四年十月一日

〔趣味・特技〕空手道・写真撮影

〔ひとこと〕父宮司の後継者として、まずは氏子の皆様に親しまれ信頼される神職を目指します。どうぞよろしくお願います。



任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	免	免	任	任	免	免	任
5・1・1	5・1・1	5・12・5	4・12・1	4・12・1	4・12・1	4・12・1	4・12・1	4・12・1	4・12・1	4・11・20	4・10・31	4・10・3	4・10・1	4・10・1	4・9・9	4・9・9
八幡宮	高津神社	意多伎神社	美保神社	佐毘賣山神社	須佐神社	狭槌神社	愛宕神社	太鼓谷稲成神社	揖夜神社	八幡宮	須我神社	須我神社	荒神社	荒神社	荒神社	荒神社
安来市飯生町	安来市矢田町	安来市飯生町	松江市美保関町	益田市乙子町	出雲市佐田町	出雲市佐田町	鹿足郡津和野町	鹿足郡津和野町	松江市東出雲町	鹿足郡吉賀町	雲南市大東町	〃	〃	〃	出雲市大社町	鎮座地
兼	兼	兼	本	兼	本	兼	兼	本	本	本	兼	兼	兼	兼	本	兼務職名
〃	〃	宮司	権祢宜	祢宜	宮司	宮司	祢宜	権宮司	権祢宜	祢宜	祢宜	〃	〃	〃	宮司	氏名
〃	〃	長妻敏政	諏訪邊文則	篠田雅子	須佐建央	春日裕文	〃	角河平彬	寺岡悠馬	三浦隆昌	千原孝通	〃	〃	〃	伊藤征男	氏名

### 神職任免

(令和4年9月9日～令和5年1月1日)

神社庁錬成行事道彦並助彦を委嘱		神社庁祭式講師並助教を委嘱	
道彦 中田 宏 記	物部神社	宮司	再任
道彦 喜和田 公 二	出雲大社	祢宜	再任
助彦 藤井 忠 美	出雲大社	権祢宜	再任
任期	令和四年十一月一日～令和七年十月三十一日迄		
助教 野上 郁 子	八幡宮	宮司	再任
助教 森 眞 史	波加佐神社	権祢宜	再任
助教 金 築 知 宏	高根県神社庁	参事	再任
講師 牛尾 充	濱田護國神社	宮司	再任
任期	令和四年十一月一日～令和七年十月三十一日迄		

### 庁務日誌

(令和4年10月～12月)

任	任	任	任
5・1・1	5・1・1	5・1・1	5・1・1
能義神社	安来市能義町	兼	宮司
賀茂神社	安来市利弘町	兼	〃
熊谷稻荷神社	安来市伯太町	兼	宮司
矢原神社	安来市伯太町	兼	宮司
		兼	齋木直彦
		兼	齋木正保
		兼	齋木直彦
		兼	長妻敏政

10月2～3日 第65回山口県神社関係者大会 於 山口県教育会館(角河庁長出席)

10月5日 広報委員会

10月13日 十月定例評議員会 於 本庁(角河庁長、忌部副庁長、木佐総代会長、金築参事出席)

10月17日 大社國學館大祭 於 大社國學館(篠田副庁長参列)

10月23日 松江護國神社例大祭 於 松江護國神社

10月31日 神青協・女子神職会合同庁舎清掃奉仕

11月4日 出雲大社神在祭 於 出雲大社(齋木理事参列)

11月8～9日 中国地区神社庁職員研修 於 松江市内(職員三名参加)

11月10日 祭祀委員会

11月11日 例祭並新嘗祭

11月18日 総務委員会

〃 教化委員会

11月29～30日 全国教化会議 於 本庁(牛尾教化委員長、和田主事出席)

12月6日 正副庁長会

12月7日 役員会

〃 身分選考委員会

〃 研修所企画会議並階位検定講習会運営企画委員会

12月13日 広報委員会

12月28日 御用納祭

# 神社フォトギャラリー

今号より神社フォトギャラリーを始めます。神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。「編集後記」も併せてご覧下さい。

大田支部 大田市三瓶町  
**通幣姫神社の鳥居**  
(撮影者 宮脇光太氏)



大田支部 大田市温泉津町  
**龍御前神社  
新春神楽**  
(宮能壮充宮司より提供)



仁多支部 仁多郡奥出雲町  
**仰支斯里神社**  
鳥居に大蛇のシippo  
(石原道夫宮司より提供)



松江支部 松江市大草町  
**六所神社**  
(吉岡弘行宮司より提供)



## 写真送り先

〒六九九-〇七〇-一 出雲市大社町杵築東二八六 島根県神社庁 録事 高見幸子 あて  
Eメール takami@shimane-jincho.or.jp  
※ 神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

次号までの締め切り

三月末日

奉納品



注連縄(神殿入口2本、神饌所入口1本)  
益田市遠田町 大石信男様



手水舎注連縄  
教化委員会石見部会様



額当2頭

波加佐神社 権祢宜 森 真史様



御鏡御匙

誠にありがとうございました



本殿から50m下にある大島の鳥居

引つ張って  
行き帰りし  
ますが、以  
前は、手漕  
ぎで行き帰  
りしていた  
と聞いてい  
ます。黒松  
港から大島

前夜祭を行うにあたり、本殿のある大島まで御神船で御祭神をお迎えに行き、御例祭後は、大島まで御祭神をお送りします。現在では、御神船を大きな漁船で

ていた時期もありました。  
昭和二年の資料には、「毎年七月三十日午後より三十一日午後まで行う。」とあります。十五年前までは、三日間行われていた時期もありました。  
現在では七月二十日過ぎの土曜日に前夜祭、日曜日に御例祭をご奉仕しておりますが、

宮司 河野 正行

### 大島神社夏の御例祭

江津支部だより

江津市黒松町一〇六五番一地に鎮座する大島神社は、江津市後地町沖合二〇〇メートルにある大島(周囲約1km)に御鎮座され、御祭神は、市杵島姫命です。





御祭神をお迎えに行く所

まで、約二キロありますが、手漕ぎでの往復は大変だったと思います。(規制の厳しい現在では考えられません)が、終戦後の祭では、船に人がたくさん乗りすぎて、沈没したという話も聞いております。)

御神船での往復には、いろいろな決まり事があります。大島神社仮殿前の東浜沖合一〇メートルにある約二メートル四方の小さな島(地元では大秀久利と呼んでいます)を三周して迎えに行き、帰りも三周します。なぜ、三周なのかという事は、現在では知る方もおられません。手漕ぎで移動していた頃には、相当な努力だったと考えられます。

大島から御祭神をお迎えしてからは、大島神社仮殿前の浜で、神輿の練り走り(歩くのではなく砂浜を走ります。)があります。大島神社仮殿前の浜に、木の鳥居を一〇〇メートルの間隔を開けて二ヶ所に埋め、その鳥居の間を神輿を担いだ氏子が走るのですが、以前は、二〇〇メー

トルくらい距離がありました。温暖化の影響で浜が侵食され現在は距離が短くなっていきます。一時間から一時間半くらい神輿を練った後、仮殿で前夜祭が行われ、その日は終了します。翌朝は十時から仮殿で御例祭が行われ、午後から神輿の町内練り歩きが行われます。「神様の御利益をいただく。」という意味合いで、神輿の休憩時には、神輿を台座に乗せ、氏子さんがその神輿の下をくぐり(行つて帰る)御利益をいただいております。私の受持神社は、どこの地区でも人口減少の影響で、祭の維持に苦労されています。黒松の夏の御例祭も一ヶ月以上前から準備を行います。大島に渡つての清掃、御神船の管理、鳥居の設置など準備が大変ですが、全国的にも黒松の夏の御例祭は、めずらしい祭だと思えます。総代長を始め、総代、氏子の皆さんと協力

しながら、御守りしていく覚悟です。



大島にある大島神社本殿

### 編集後記

令和五年を迎え、新年のお喜びを申し上げます。

さて、島根県神社庁報は新企画「神社フォトギャラリー」を始めます。十四ページ掲載のように、社殿、神社に集う人々の様子、神社を囲む四季の風景など、神社の様々な姿をとらえた写真を神社庁にお送りください。アルバムを開いて写真を探していただいても、新たに撮影されても結構です。普段の神社の様子、祭礼の様子など、多様な写真を募集します。簡単な説明を付けてくださると幸いです。

昭和十七年に大日本神祇会島根県支部が出版した「島根県神社概説」という本のデジタルデータが国会図書館のデジタルコレクションに収蔵されていると、六所神社の吉岡弘行宮司さんに教えていただきました。この本には当時の神社の写真が掲載されていて、戦前の神社の状態などをうかがい知ることが出来ます。

新企画「神社フォトギャラリー」には現代の神社の姿を記録し後世に残す意味もあります。この企画は皆様のご協力なしには成り立ちません。どうかお気軽に多くのお写真をお寄せくださいますよう、よろしくお願いたします。(鳥)

島根県神社庁報(第三五六号)  
 発行日 令和五年一月二十五日  
 発行者 島根県神社庁  
 編集 広報委員会  
 委員長 陶山 浩正 委員 鳥屋尾 浩  
 副委員長 宮能 壮充 委員 江角 恵  
 委員 石崎 彰矩